



2016 昭和薬科大学 オープンキャンパス 【8/6(土)・8/7(日)両日同じスケジュールです】

					※整理券	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	
講義棟	記念講堂 (※飲食不可)	①	大学紹介 & 入試説明 (各回とも同じ内容です)	45分	—	11:00～11:45	12:10～12:55			15:00～15:45		
		②	保護者対象の説明会	45分	—			13:05～13:50				
	第1教室 (※飲食可)	③	受験生のための入試対策講座 (予備校講師による数学・化学の対策講座)	90分	—			13:00～14:35(途中5分休憩)				
	指定教室集合	④	キャンパスツアー (各回とも同じ内容です)	50分	必要	11:00～11:50	12:00～12:50		14:00～14:50	15:00～15:50		
		⑤	植物園見学ツアー	40分	必要				14:00～14:40			
		⑥	なるせ寮見学ツアー (地方出身者のための女子学生寮)	40分	必要		12:10～12:50					
実習棟	各実習室 (Hのみ研究棟1F)	⑦	実験プログラム	60分	必要	11:00～12:00			14:00～15:00			
第2講義棟	301教室 (※飲食可)	⑧	薬学模擬講義	45分	—		12:10～12:55					
		⑨	在学生講演	40分	—			13:00～13:40				
	2F・学習室	⑩	教職員との個別相談		—			13:00～16:00				
	2F・学生ラウンジ	⑪	在学生との懇談		—			13:00～16:00				
本館	2F・休憩場所	⑫	飲食スペース			休憩・飲食スペースとして16:00までご利用できます						
	1F・食堂	⑬	軽食引換場所および飲食スペース (軽食引換時間⇒10:30～14:30)	必要		飲食スペースとして16:00までご利用できます(軽食引換時間は14:30まで)						
	1F・ロビー	⑭	受付・資料・整理券 配布			10:30～16:00						

- 実験および各種ツアー 当日各受付にて定員まで**先着順**に整理券を配布します
- 軽食配布 指定場所(本館の**飲食スペース**、**第1教室**、**301教室**)でお召し上がりください。講義等を聞きながら食べていただいて結構です。
- 臨時バス JR横浜線「成瀬駅」発 ⇒ 10:00～14:30の間 約15分間隔で運行します
昭和薬科大学発 ⇒ 12:30～16:30の間 約15分間隔で運行します
- キャンパス自由見学 「キャンパスマップ」をご覧のうえ、ご自由に見学ください



2016オープンキャンパス 実験プログラム

【当日、実験プログラム受付で先着順に整理券を配布します。定員になり次第締め切りとさせていただきます】

8月6日(土) 午前の部(11:00~12:00)、午後の部(14:00~15:00)

		実験タイトル <研究室>	定員	概要	場所
午 前 の 部	A 午前	薬剤師の仕事を体験してみよう <臨床薬学教育研究センター>	36	薬を患者さんのために調剤する作業を実際に体験していただきます。複数の粉薬powdersを、装置瓶から天秤balancesと薬匙dispensing spoonを用いて正確に秤取し、乳鉢mortarと乳棒pestleで均等に混合し、一回服用量分毎に分けて包装する作業を体験してもらいます。その他に、飲む水薬の調剤も体験してもらいます。	実習棟2F 第2実習室
	B	くすりに弱い人？強い人？ <薬物動態学研究室>	20	くすりの効き目には個人差があります。 この原因の一つに物質を分解する酵素の遺伝子が人によって異なることがあります。例えば、お酒をたくさん飲んでも、平気な人と、少しでもお酒を飲むと顔が赤くなって、二日酔いになる人がいます。このように、お酒やくすりを分解する体質の差となって現れます。 あなたの遺伝子の抽出を簡単に行います。さらに、お酒を分解する酵素の遺伝子が、野生型か、変異型かを判定する方法を体験していただきます。	実習棟2F 第1実習室
	C	植物から香りの成分を取り出してみよう！！ <天然物化学研究室>	20	私たちは様々な香りに包まれて生活しています。くさい、おいしそう、いい香り、感じ方は様々ですが、自然界にはたくさんの香りがあふれています。良い香りの代表はなんといっても植物の花や果実の香りではないでしょうか。私たちはこのような香りを食物や香水、医薬品としても利用しています。今日は、身の回りの植物や生薬から香りの本体(成分)を取り出してみたいと思います。	実習棟4F 第5実習室
	D	光の不思議な性質である偏光について学ぼう <薬品分析化学研究室>	20	電磁波である光は反射、屈折、吸収、回折などのほか偏光という性質を持っています。光から直線偏光を取り出し、この回転を利用することにより薬の異性体(光学)を区別することができます。この光の不思議な偏光を実際に取り出し、光を利用した分析法(機器分析)を学ぶのが本体験の目的です。	実習棟4F 第6実習室
午 後 の 部	A 午後	薬剤師の仕事を体験してみよう <臨床薬学教育研究センター>	36	薬を患者さんのために調剤する作業を実際に体験していただきます。複数の粉薬powdersを、装置瓶から天秤balancesと薬匙dispensing spoonを用いて正確に秤取し、乳鉢mortarと乳棒pestleで均等に混合し、一回服用量分毎に分けて包装する作業を体験してもらいます。その他に、飲む水薬の調剤も体験してもらいます。	実習棟2F 第2実習室
	E	顕微鏡で生体を観察しよう <生化学研究室>	20	マウスの心臓が実際に動いている様子の観察や、がんの組織から作った標本を使って細胞の形態や増殖している細胞の分布の顕微鏡観察をします。	実習棟3F 第3実習室
	F	身近な食品に含まれる有害な化学物質 <衛生化学研究室>	20	私たちは食品から様々な栄養素を摂取しますが、同時に体にとって「不要な物質」も取り込んでいます。従って、薬学部では医薬品のみならず食品についても学び、健康に関わる幅広い知識や正しい対応を身につけなければなりません。実際に食品中に含まれる「不要な物質」の一例として水銀を測定し、食の安全について考えてみましょう。	実習棟3F 第4実習室
	G	鎮痛薬成分アスピリンの水溶液での安定性を調べよう <薬品物理化学研究室>	20	鎮痛薬成分であるアスピリンは、エステル構造をもつため、水溶液にすると加水分解を受けます。その加水分解反応の速度が、水溶液のpHや温度によって、どのような影響を受けるのかを調べます。反応速度の測定は、日本薬局方(医薬品の規格基準書)に示された方法を参考にして、分光光度計という装置を使って行います。	実習棟4F 第6実習室

2016オープンキャンパス 実験プログラム

【当日、実験プログラム受付で先着順に整理券を配布します。定員になり次第締め切りとさせていただきます】

8月7日(日) 午前の部(11:00～12:00)、午後の部(14:00～15:00)

	実験タイトル <研究室>	定員	概要	場所
午 前 の 部	H あなたの肺年齢は、何歳？ <薬物治療学研究室>	20	普段、皆さんは、酸素を吸って、今度は二酸化炭素を吐いて、そしてまた酸素を吸って・・・、なんて、一切意識していないと思います。それは、肺が健康で、酸素と二酸化炭素の交換が十分に行われているからです。この実験では、スパイロメーターという測定器を用いて、肺の健康状態をより詳しく解析し、皆さん自身の肺のことをもっと知ってもらおう、というのが狙いです。	研究棟1F 薬物治療学 研究室
	I 心音聴診と眼底検査で 心臓・血管寿命を考えよう <薬理学研究室>	20	超高齢化社会の現在、健康長寿の実現は薬学領域で最重要課題の1つです。日本人の死因の約3割は心疾患・脳血管疾患によるものです。そこで、本実験を通して血管長寿を考えてもらうきっかけになればと思います。 ① ヒトはなぜ、爆薬(ニトログリセリン)を飲むのか？の話 ② 聴診器で自分とマウスの心拍数を聞き比べます。 小さい動物ほど心臓の打つ音が早い？ ③ 自分の眼底血管を自分の眼で観察します。 ローソク1本で！どうして？！	実習棟2F 第1実習室
	J 錠剤を作ってみよう！！ <薬剤学研究室>	20	1日1回の薬や1日3回の薬など、薬の飲み方はいろいろ。様々な機能を持った錠剤を使って、服用間隔が違う秘密を目で見て体験してみよう。 1. いろいろな錠剤を使った実験をして、薬が体に吸収されるまでの過程を考えてみよう。 2. 自分達で錠剤を作り、どうやって薬ができるかを体験してみよう。	実習棟2F 第2実習室
	K 身の回りの化学を色で見る <薬化学研究室>	30	私たちの身の回りには食べ物、飲み物、調味料、ペン、薬など多くの化合物が存在します。今回の実験では、簡単な反応や手段を利用して、それらの化合物に色をつけて目で見たり、においを嗅いだりして、化合物の性質を実感してもらいます。 1. 塩化鉄による呈色反応 2. ジアゾカップリング反応 3. においの違い 4. 油性ペンの色素の検出 5. カフェインの検出	実習棟4F 第5実習室
午 後 の 部	L 薬の効果を目で見よう ～抗生物質が病原菌を倒す～ <統合感染免疫学研究室>	20	抗生物質は病原菌の増殖を抑える薬として感染症治療に効果を発揮し、世界中で無数の命を救っています。では、この抗生物質が実際に病原菌を倒すところを見たことはありますか？この実験では抗生物質「アンピシリン」が病原菌に効いている様子をグラム染色法により観察します。目で見ること「薬の効果」をぜひ実感してください。	実習棟2F 第1実習室
	M 見てみよう！ 化学反応と化合物の分離 <薬品化学研究室>	20	薬をはじめ、わたしたちのからだ(タンパク質、脂質など)、身の回りのもの(プラスチックなど)の多くは有機化合物です。この実験では、マジックインクのなかの有機化合物をわける「分離」をみなさんに実際に目で見てもらいます。また、有機化合物同士をくっつけて結合をつくる「化学反応」も、できる化合物が光ることでもみることができます。	実習棟4F 第5実習室
	N ノーベル賞反応を体験しよう！ <医薬分子化学研究室>	30	医薬品がどのように作られているのか知っていますか？ その多くは「有機合成反応」によって作られているのです。今回は、2010年にノーベル賞を受賞された北海道大学の鈴木章先生が開発した「鈴木カップリング反応」が医薬品の製造にどのように使われているかを紹介します。さらに、鈴木カップリング反応を実際に体験してもらいます。	実習棟4F 第6実習室

2016オープンキャンパス 薬学模擬講義

8月6日(土) (12:10～12:55)

講義タイトル <研究室>	概要	場所
試験管を振らない薬学研究って？ － 疫学ってなんだろう？ <社会薬学研究室>	疫学研究は、実際に地域住民や患者集団を長期間観察することで、科学的に病気の原因や関連する因子を明らかにし、病気の予防、効果的で安全な治療の実践へと繋ぐ研究です。 私たちがよく見かける「〇〇を食べる人は長生きする」といったニュースは疫学研究の手法を用いた研究結果によるものも多いのですが、中には「本当に？」と疑いたくなるような話もありますよね。 今日は、身近な生活で役立つ疫学の知識、そして脳卒中や心臓病の原因となる高血圧に関する疫学研究についてお話しします。	第2講義棟3F 301教室

8月7日(日) (12:10～12:55)

講義タイトル <研究室>	概要	場所
薬の効き方がヒトによって違うのはなぜだろう？ <薬物動態学研究室>	同じくすりを、同じ量、同じ時間に飲んでも、その効き目はヒトそれぞれに違うことがあります。この原因の一つに、くすり(＝化学物質)が生体内に吸収され、排泄されるまでの運命が個々の患者さん毎に異なっていることがあります。 今日は、くすりを飲んだ後の生体内の運命とその飲み合わせや個人の体質の違いを、くすりを分解する酵素を中心に説明します。	第2講義棟3F 301教室